

# カイゼン報告用紙

課等名

教育研究所

受 理 番 号

26-K015

標 題

地域の大学との協働による、小中学校における教科学習支援ボランティア

## 1 これまでのやり方(問題点)……何がどのように問題であったか具体的に

学校現場は子どもたちを見守り、支援していただけるボランティアの方を多く必要とする場であるが、学校単独で募集し、学校でのボランティアの趣旨を理解していただいたり、交通費等の経費を計上したりすることは難しかった。

また大学でも、教職を目指す学生が安心して学校現場を経験できる機会を必要としていたが、大学から離れた場所でのボランティアは物理的、時間的に難しいという課題があった。

## 2 取組経過……改善実施までの取組内容、苦勞した点、費やした時間等について具体的に

まず平成24年度に試行として、市内中学校2校で計34名が教科学習支援員として活動した。受け入れる学校としては、子どもたちと年齢が近く、それぞれが大学で専門的に学んでいる知識を生かしながら支援してもらえるというメリットがあり、学生としては、教育実習前に学校現場を体験できる貴重な機会となった。

これまでも学校ごとにボランティアを受け入れてはいたが、東海大学と協議の結果、窓口を一本化し、市内の全小中学校に教職を目指す学生を派遣することができるよう、平成25年度に「教科学習支援員派遣事業」として事業を立ち上げるに至った。

## 3 改善後のやり方……改善後の方法について具体的に

平成25年度からは「覚書」を交わし、担当課同士で協議を重ねながら、より良い派遣の方法を決定した。

### 1 大学の役割

(1)説明会開催(2)申込み受付(3)保険加入事務(4)連絡事項周知 等

### 2教育研究所の役割

(1)小中学校の派遣希望調査(2)説明会参加(3)派遣計画作成(4)派遣事務 等

## 4 改善の効果……効果について数量等を具体的に

効果額  
(算定根拠)

時間の節減  
(算定根拠)

その他の  
効果

学校や子どもたちにとって、共に活動してくれる学生の存在は親しみやすく、心強いものとなっている。また、学生にとっては教育現場を体験しながら学生生活を送ることができるとともに、交通費相当額の支給があるため、大学から少し距離のある小中学校でも、交通費の心配をすることなく、安心して通うことができる。